

初級からの日本語スピーチ

— 国・文化・社会についてまとまった話をするために —

Speech for Basic Level Japanese

— for organized oral presentation of one's country, culture, and society —

著者：独立行政法人国際交流基金
関西国際センター

I S B N : 4-89358-564-9

出版社：凡人社
刊行年月：2004年3月

判型・ページ数：B5版 166p

定価：2,205円(税込み)

その他：CD付き



国際交流基金関西国際センターでは、初級段階から①自分や国、社会、文化に関する特定の話題についてまとまった話ができるようになる、②特定の話題についての質問に答えることで口頭能力を伸ばす、③効果的な発表のための技術身につけること、を目的に、成人学習者用教材『初級からの日本語スピーチ — 国・文化・社会についてまとまった話をするために—』を出版しました。教材の概要と使い方を簡単にご紹介します。

<教材の特徴>

①「まとまった話をする」ための基礎力を培う

この本では、初級段階から「まとまった話をする」ことを体験し意識化させることを目指しています。一般に初級段階の口頭表現指導では文法項目確認のために、文レベルの練習に終始する傾向がありますが、成人の学習者の場合には初級段階であっても知的な話題でまとまった話をすることで達成感が得られ、また学習効果も高いのではないかと考えられるからです。

②スピーチ作成プロセスを重視する

この本は、スピーチの成果だけでなく、その作成プロセスを大切にしているので、課の構成に沿って学習をすすめれば、スピーチを作成することができます。また、「Q&A」→「作文」→「スピーチ」という異なった形態で同じ内容について繰り返し発信することにより、それぞれの学習者にとって必要な語彙や表現を定着させることができます。

③知的な話題で話す

この本は、初級学習者が対象ですが、自国の文化や社会、歴史など、スピーチとしてだけでなく日本人とのつきあいの中でも役立つ話題を選んでいきます。学習者のニーズや興味、授業の回数などコースデザインに合わせて選んで使ってください。

<本書の構成>

この本は、ねらいと課立ての違いによって2つのstepからなっています。

Step1	本教材の構成・内容	Step2
意味のまとまりの意識化 (基本的なスピーチの構成を学ぶ)	ねらい	より複雑な談話形成のための基礎 (より複雑なスピーチの構成を学ぶ)
話題による課立て	課立て	談話展開のパターンによる課立て
モジュール式		モジュール式
1. まつり 2. 地理、民族、宗教 3. 私の仕事 4. 観光 5. 歴史 6. 私の国と日本の関係 7. 結婚 8. 産業と貿易 9. 経済と人々の生活	目次	10. 対比する「習慣の違い」 11. 因果関係1「教育の問題」 12. 変化を説明する「日本(日本人)のイメージ」 13. 分析する「人間関係」 14. 因果関係2「社会問題」 15. 出来事を語る「いやな体験」

<本書を使った学習活動の例>

以下のような流れで学習活動を行うことができます。

1 談話展開の把握



各課の話題についてどんなことを話したいか、どんな順番で話したいか、クラスで話し合います。

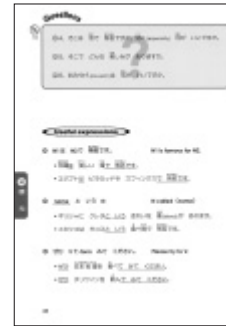
学生の意見を聞いた後で Flowchart でスピーチの構成や談話に関わる表現（「まず_____の地理や気候についてお話ししましょう」etc.）を確認してください。



2 話題についての Q&A



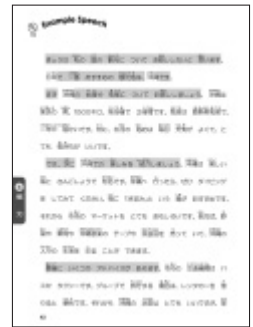
Questionsの質問に答えます（質問はFlowchartの流れに沿っています）。Useful expressionsやReference vocabularyの語彙や表現を参考にすれば簡単に答えることができます。その際、クラスで意見交換をさせて内容を深めることが大切です。



3 談話展開の確認



Example speech を聞いて、自分のスピーチのイメージ作りをします。



4 クラス外 個別活動



授業が終わったら、学習者はスピーチ原稿と視覚資料を準備します。

教師は学習者がつくってきたスピーチ原稿をチェックして、モデルテープを吹き込みます。

学習者はモデルテープを聞きながら発音練習をします。

5 スピーチ発表



毎回数人の発表者がスピーチをします（ビデオに撮影するとフィードバックする時に役立ちます）。

発表が終わったら、内容について質疑応答しましょう。

※日本人のゲストを迎えて発表会を開くと、学習活動の成果が試せます。

6 フィードバック

スピーチ発表についてよかった点や悪かった点を話し合います。下のような評価シートを作っておくと便利です。

評価項目		◎/○/×	コメント
内容	スピーチの構成		
	スピーチの内容		
	正確さ（文法、語彙）		
	視覚資料		
発表	発音（声の大きさ、スピード、ポーズ）		
	発表態度（身振り、アイコンタクト）		
	視覚資料の見せ方		
	スピーチ後の質疑応答		

初級レベルであっても話す内容を重視すること、話す内容が短くても話題として完結させることで得られる達成感は、学習意欲の向上に結びつくのではないのでしょうか。お使いになってのご感想やご意見をぜひお聞かせください。

本教材、コースデザイン、クラス活動に関するお問い合わせやご相談があれば、jpf-kansai@jpf.go.jp までお寄せください。